

主催 地球っ子クラブ てんきりん
NPO 法人さいたまユースサポートネット

富士山より高い標高 4,000 メートル級のチベット高原にあるポンダ村。
17 年前に村を離れて日本で暮らすチベット人 ロディ・ギャツォさんが故郷の伝統的なお祭りを紹介する映画を作りました。
外国に行かなくても、私たちのまわりにはいろいろな国から来日している外国籍の人たちがたくさんいます（現在日本で暮らす外国人数約 288 万人）。様々なきっかけで日本に来て日本に暮らしているのに、今感じていること考えていることを私たちが知る機会はなかなかありません。
この上映・交流会は、地域で多文化共生の取り組みを進める『地球っ子クラブ てんきりん』さんが外国ルーツの子どもたちと一緒に企画・準備してくれました。

17 才で故郷のポンダ村を離れたロディさん。

楽しかった夏まつり……。美しい映像（2010 年に撮影した映像が中心）だ。
村の男たちがさらに 5,090 メートルの山頂に登る。山の神に祈り踊り、共に数日を過ごす。
高地の遊牧で厳しい生活だが、皆で助け合い 村は仲良く笑顔であふれている。

ところが、2019 年に再訪したところ村にはほとんど若者がいなくなっていたという。
たくさんいた馬もいなくなり、山に登るのは今ではバイク。
村の近くに出来た空港があつという間に村を変えてしまっていたのだ。
町に出た若者は帰らず、中国政府の強権的な政策もじわじわと暗い影を落とす。

しかし、私はロディさんの澄んだ表情が印象的だった。

24 才（2007 年）で来日した彼は故郷で小学校しか出ておらず（現地では働くことが普通）、日本で勧められて夜間中学校に入学したそう。チベットで教師は大変怖い存在だったが、日本の先生がとても親切で優しいのに驚いたという。そして、学ぶことが面白くなって定時制高校、大学へと進んだ。現在は介護の仕事で働きながらチベット文化を紹介する仕事に取り組んでいる。

もう一つ、心打たれたのは、介護の仕事をととても大切に考えていることだ。

チベット仏教では「困っている人、弱い人を助けるのはとても良い行い。良い行いをたくさんした人は来世で幸せになれる」と教えられ、そういう人は来世に行くことも怖くないという。

学生時代から介護業界でアルバイトしていたが、大学卒業後正式に入社して働いている（6 年目）。たくさんのお年寄りから（戦争がいかに悲惨だったか等）大切なことを学んでいるという。

学校に訪問して話をする機会があると、子どもたちに「話を聞くと聞いている人も話している人も心が温かくなる。日本人は皆親切で便利な国だけれど、心のつながりをもっと大切にすれば素晴らしい国になると思います。ぜひ、おじいちゃんおばあちゃんに会いに行ってお話をしてくださいね。」と伝えるとのこと。

私も、本当に大切にしたいことを忘れないようにしよう。改めて、そう心に刻む一日になった。